

居合道たより 34号



居合道ながさき



啓蟄や 日はふりそそぐ 矢の如く / 高浜虚子・啓蟄(けいちつ)

啓蟄は「春の陽気を感じ、地中で冬ごもりしていた虫が動き出し、はい出してくる季節」と言われています。啓蟄の時期は 2023 年は節気において三番目に訪れる節気です。今年は3月6日(月)頃に訪れ、その期間は啓蟄の日から次の節気である春分の日の前日までとなります。南の地域では春が訪れ、北国は春を待ち焦がれている。現代日本での啓蟄は、そんな時期のように感じます。

今年は新型コロナウイルス感染も収束に近づき、居合道の講習会や大会なども再開されることになり、行動を制約された時間を過ごすことも僅かになってきています。徐々に日常化がもどりつつあり、暗闇の中に明るい陽射しが射してきました。このような時期こそ体幹などの身体づくりや稽古の基礎基本を大事にして、本来の居合道の楽しみ方で過ごすのも良いのかもしれません。



写真：紅く色づく桃の花

居合道中央審査会・・・塩土宗喜氏 七段合格(京都武道センター)

令和5年3月5日(日)京都市武道センターで実施された居合道七段・六段審査において七段に塩土宗喜(友剣会 島原市)が見事合格をしました。日頃の稽古に対する熱い思いや弛まぬ努力の成果が現れたのだと思います。おめでとうございます。



塩土宗喜(友剣会)

「居合道七段を拝受して」友剣会 塩土宗喜
審査の順番が発表されると私の受験番号が51Aで審査開始直後の開始1番目だったので緊張する時間がありませんでした。普段通りに、稽古通りにという気持ちで審査に挑みました。合格発表で自分の番号があった時には「ヤッター」という思いとほっと安心した思いが同時に込み上げてきました。合格に際して、友剣会の師匠をはじめ、仲間、居合道部の方々のご指導と協力と家族の暖かい思いがあったことに本当に感謝しています。ありがとうございました。

お知らせ(1)・春季居合道講習会及び春季居合道級位審査会

令和4年度春季居合道講習会及び春季居合道級位審査会を開催致します。

- 1 期日 講習会 : 令和5年3月26日(日) 10:00~16:00
級位審査会 : 平成5年3月26日(日) 16:00~
- 2 会場 雲仙市立愛野小学校 体育館

お知らせ(2)・居合道段位審査会及び春季居合道講習会

令和5年度居合道段位審査会及び春季居合道講習会を開催致します。

- 1 期日 審査会 : 令和5年4月2日(日) 10:00~12:00 (9:00受付)
講習会 : 平成5年4月2日(日) 13:00~16:00
- 2 会場 佐世保市東部スポーツセンター体育館(佐世保市浦川内町無番地)
- 3 審査会 ※午前10時00分開始(受付9時00分~9時30分まで)
- 4 審査要領 学科 段位受審者全員に対して行う。(当日、清書用紙を提出)
実技 初段、二段、三段は全剣連居合5本(当日指定)
四段、五段は古流1本(自由)、全剣連居合4本(当日指定)
制限時間6分(始め及び終わりの礼式を含む)
- 5 申込み 令和5年3月26日(日)までに専用申込書を居合道事務局提出。
※初段受審者は令和5年4月2日で満13歳以上であること。
- 6 注意事項
段位(昇段)審査会は年間1回(4月審査)のみ実施
学科試験は「学科試験問題を指定のA4用紙」にボールペン等で事前に清書して、当日受付に提出する。(問題内容は長崎県剣道連盟ホームページにも掲載)

お知らせ(3)・・・県剣連会費及び居合道部会費納入について

<長崎県剣道連盟年会費及び居合道部年会費納入のお願い>

令和5年度長崎県剣道連盟年会費と居合道部年会費を併せて納入お願い致します。

- 1 長崎県剣道連盟年会費
 - ① 四段以上は2,000円 ②三段以下は1,000円
 - ※学生(小中高大)は免除
- 2 県居合道部年会費
 - ① 一般 2,000円 ②学生(小中高大)は免除
 - (年会費が1000円→2000円)
- 3 納入期日 令和5年4月28日(金)までに納入、春季講習会又は直接事務局(竹本苑)へ振り込みをお願いいたします。

報告(1)・・・長崎県剣道連盟居合道部年間事業計画(まとめ)

【令和5年度】

4月2日(日)	居合道段位審査会・春季講習会	佐世保市東部
5月13日(土)	第1回長崎県居合道委員会・理事会	県立武道館
5月14日(日)	第53回長崎県段別居合道選手権大会	県立武道館
9月10日(日)	全剣連居合道伝達講習会・居合道級位審査会	県立武道館
10月1日(日)	秋季居合道講習会・長崎県居合道演武大会	県立武道館
10月21日(土)	第58回全日本居合道大会	東京都武道館
12月3日(日)	長崎県居合道古流講習会	県立武道館
1月21日(日)	第2回居合道委員会・理事会	県営野球場
3月16日(土)	北九州居合道大会	北九州体育館
3月24日(日)	春季居合道講習会・級位審査会	県立武道館

日本刀との出会い(1)・・・・・・・・―― 居合道と日本の伝統技術 ――

【1】日本刀との出会い

居合道教士七段 高木志伸

日本刀の手入れをするたびにその重みで日本の伝統技術の深さを感じさせられる。居合道との出会いがなければ日本刀を所持することもなかっただろう。工業高校機械科の教師としての観点からも興味深いことばかりである。私が所持している二振の真剣にさえ、それぞれの顔があり歴史を持っている。「肥前国住藤原吉光作」は長さ2尺4寸3分(73.6cm)反りが6分5厘(2.0cm)の現代刀、平成元年に佐賀県伊万里の刀匠より一年間かけて私の身体にあった真剣を作って頂いた。この一振のために20振りの荒打ちをしたということだった。刀が出来あがるまで何度も何度も伊万里まで足を運んだ。そのおかげで刀鍛冶場を見学することができた。刀鍛冶場の中は鉄の温度を見るためにあえて暗くしたままで、昔の趣がそのまま残っていた。この刀匠は居合道もされる方で、できた刀を自分で振ってみて納得のいくまで仕事をやり遂げている。もう一振は数年前に「豊前国小倉住藤原宗清作」という新々刀を譲っていただいた。江戸末期の真剣で長さ2尺5寸2分(83.6cm)反りが8分5厘(2.85cm)刃こぼれがあるけれども美しい形をしていてとても気に入っている。

真剣を持つことによって、物の大切さ、手入れ(メンテナンス)の重要性を知ることができた。鉄は生き物と同じで油断をすればすぐに錆が出る。一度出た錆は二度と取れない。日頃の生活や性格がそのまま真剣の手入れにも反映される。

今回、工業高校機械科の教師として、また、居合道を生涯極めていくものとして日本刀の歴史と製造法について述べていきたい。

【2】日本刀の歴史

日本刀は武士の魂といわれ、相手を倒すための武器や護身のためのものだった。徳川幕府の元禄時代以降は刀剣としての存在価値は次第に薄れ、明治維新の廃刀令によって無用の長物になった。一方では刀剣の神秘的美しさが古くから美術工芸品として高く評価されている。

刀剣がいつから存在したのかははっきりしない。刀剣の出現から平安中期まで上古時代。反りのない直刀で剣(つるぎ)や両刃のものだった。平安末期から登場した反りのある鑓(しのぎ)造りの日本刀が砂鉄を集めて玉鋼(たまはがね)をつくりこれを火によって鍛錬して水に着けて焼き入れをする。そして研磨をして仕上げる日本刀造りの様式がこの頃に定着した。

直刀から反りのある日本刀に変化した理由は偶然に焼入れの段階で反りがついたものをそのままにしたもので徒歩戦から騎馬戦への変遷で実用的にも優れていたために研究と改良工夫がされた。

平安中期以降から室町初期までは長さ2尺(66cm)以上の太刀を腰に着けていた。桃山時代より前を古刀、後を新刀という。室町から桃山、江戸時代に造られたものは刀であり、太刀に比べると一般に反りが少ない。刀工も鉄産地から城下町に集まるようになってきた。

反りのある日本刀が造られるようになると刀工たちは独特の刃文をつけるようになった。この頃より日本刀が武器である以上に美の対象、信仰の対象として考えられるようになってきた。江戸時代になると政情が安定し、刀は武器としてでなく武士の象徴となった。刀剣よりも鍔、小柄、鞘などの拵(こしらえ)の装飾が派手になった。幕末になると黒船来航などの海外からの脅威を感じるようになり、刀剣造りが盛んになった。明治維新の廃刀令で武器としての存在価値がなくなった。明治から昭和20年までは軍隊で実用的に使われたが、軍刀は材料、製法から日本刀と呼べるものではなかった。材料は鉄鋼石が使われ、鑄型に流して成形され鍛刀することなく研磨された。日本刀は武器としてだけでなく土、鉄、火、水によって生み出された自然の産物という神秘的な側面を持っている。



「豊前国小倉住藤原宗清作」



上「肥前国住藤原吉光作」・下「豊前国小倉住藤原宗清作」